

○10番（黒田真徳）（登壇） 皆様こんにちは。公明党議員団の黒田です。

それでは、通告に従いまして質問をさせていただきます。

初めに、財政戦略についてお伺いします。

現在、地方自治の課題として大きく3つの課題が同時進行していると言われていています。

1つ目に、少子高齢化による地域社会の縮小、2つ目に、税込減と社会保障費増による自治体財政の逼迫、3つ目には、行政サービスのデジタル化遅延ということでございます。

その中で、財政の逼迫については、少子高齢化や若い世代の転出超過による市税収入の先細り、その反面、頻発、激甚化する災害への対策費、老朽化するインフラ整備対策など、歳出費の増大が懸念されます。入るを量りていずるを制すとの言葉にありますように、支出の前に収入を正確に把握し、それに見合った支出を行うということであれば、安定的な質の高い行政サービス、社会経済の変化に対応し得る持続可能なまちづくりを行うためにも、歳入増に向けた取組は必要不可欠でございます。

歳入確保の取組には大きく3つ、1つ目に、既存財源の徴収、管理強化、2つ目に、資産管理の戦略的推進、3つ目に、新たな財源創出と稼ぐ力の向上があります。

3つ目の新たな財源創出と稼ぐ力の向上には、ふるさと納税、ガバメントクラウドファンディングの取組があります。

現在、新居浜市では、猫の不妊去勢手術費用に対するガバメントクラウドファンディングを行っております。市の取組が紹介されているふるさと納税のサイト、ふるさとチョイスで確認いたしますと、受付中の猫の不妊去勢手術費用と受付が終了している太鼓台派遣が確認できました。

同サイトで、他自治体のクラウドファンディングの取組を拝見しましたが、同じような取組でも寄附の集まり具合に違いがありましたが、その差の原因は分かりづらく、全国的に共感を得られるものは、寄附額が大きいのも理解できるのですが、そうでないものについては、やはり地元出身の方の寄附が大きいのかと推察いたします。

そこで、新居浜市におきましても、猫の不妊去勢手術費用の寄附募集は大切な取組なのでそのまま継続し、それとはまた違った層をターゲットとして、新たな事業の追加について検討されてはいかがかと考えます。

例えばの話ですが、市では、令和6年度、令和7年度に山田社宅整備事業として、外国人社宅の整備事業に取り組まれています。このような市の産業遺産や歴史遺産についての事業を検討することで、県外在住の住友関係者や市の歴史遺産を愛してくれている方の御賛同をいただけるのではと考えます。

既にファンドを活用する事業については市でも熟考されているかと考えますが、新居浜市出身で、全国で御活躍されているにはま倶楽部の方の御意見などを伺いながら、新たに事業の検討を行うことについての御所見を伺います。

2点目に、市長のおっしゃられるスマートシュリンクについてです

が、持続可能なまちづくりのための市のコンパクト化の取組について賛同、期待するところでございます。

現在、市の最上位計画である長期総合計画の見直し年度になっています。30年後、50年後の新居浜市の未来を見据えてのかじ取りも必要かと考えますが、市のコンパクト化につながる計画の見直しなどはありますでしょうか、お伺いします。

○議長（田窪秀道） 答弁を求めます。古川市長。

○市長（古川拓哉）（登壇） 黒田議員さんの御質問にお答えいたします。

財政戦略についてでございます。

まず、新居浜出身者の意見に基づく新たなガバメントクラウドファンディング事業の検討についてでございます。

全国にははま倶楽部の皆様の御意見を伺いながら事業の検討を行うことは、外部の知見や新たな視点を取り入れる上で大変意義深いものと考えております。今後は事業の目的や効果、実施体制、ガバメントクラウドファンディングの仕組みとの適合性などを総合的に精査するとともに、全国にはま倶楽部からいただいた御意見を参考に、活用の可否について判断してまいります。

次に、市のコンパクト化につながる長期総合計画の見直しについてでございます。

現在、長期総合計画の中間見直し作業を進めておりますが、近年の急激な人口減少を踏まえ、2030年の将来目標人口を下方修正することといたしております。

これは持続可能な市政運営を実現するため、現実的な視点を持ちながら計画的に対応する必要があるためでございます。

また、人口減少対策につきましては、今後も国や県と連携しながら、子育て支援の充実や交流人口、定住人口の拡大、地域産業の振興等に取り組み、少しでも減少スピードを緩和することを目指しております。

一方、人口減少は避けられないものと受け止め、スマートシュリンクを念頭に置いたまちづくりを進めていく必要があると考えております。

このことから、今回の中間見直しにおいては、市のコンパクト化を進める観点から、教育分野では、児童生徒数の減少に対応した学校再編に向けた取組の推進、消防分野では、消防団の組織再編、都市計画分野では、都市拠点地域の再整備、下水道分野では、効率的な汚水処理施設の整備についてそれぞれ計画に位置づけ、今後取組を推進していくことを検討しております。

今後におきましても、30年後、50年後を見据え、将来的な人口規模において必要な機能を維持しつつ、賢く縮んでいくまちづくりを進めるとともに、市民幸福度の向上を念頭に市政運営に取り組んでまいりたいと考えております。

○議長（田窪秀道） 黒田真徳議員。

○10番（黒田真徳）（登壇） ありがとうございます。未来の子供たちのための持続可能なまちづくりの取組について、よろしく願いいたします。